

2021年度 お茶の水女子大学大学院  
人間文化創成科学研究科（博士前期課程）

人間発達科学 専攻 ・ 心理学 コース

推薦入試、学士・修士一貫教育トラック特別選抜  
専 門 試 験

試 験 日 : 2020年9月6日(日)

試 験 時 間 : 9時30分～11時30分

【注意事項】

1. 問題1と問題2にそれぞれ別の答案用紙を用いること。
2. 解答する問の順序は任意だが、問の番号を答案用紙に明記すること（例：問題2（1）問3）。
3. 答案用紙がさらに必要な場合には申し出ること。

問題 1

(1) 以下の英文の全文を日本語に訳しなさい。人名は英語表記で構いません。また、\*を付した単語について、本文の後に注があります。(25 点)

この部分に記載されている文章については、  
著作権法上の問題から掲載することが  
できませんので、ご了承ください。

(出典 : Dickens, L. et al. (2014). Pride attenuates nonconscious mimicry. *Emotion*, 14(1), 7–11.  
より一部改変)

(2) 以下の英文の全文を日本語に訳しなさい。(15 点)

この部分に記載されている文章については、  
著作権法上の問題から掲載することが  
できませんので、ご了承ください。

(出典 : Nave, G. et al. (2019). Are bigger brains smarter? Evidence from a large-scale preregistered study. *Psychological Science*, 30(1), 43–54. より一部改変)

## 問題2

(1) 以下の英文に関する設問に日本語で答えなさい。なお、以下の英文の前に、実験では、実験条件と統制条件における実験参加者の行動を比較するなど、複数の条件間の比較を行うことが説明されています。また、\*を付した単語について、本文の後に注があります。

この部分に記載されている文章については、著作権法上の問題から掲載することができませんので、ご了承ください。

この部分に記載されている文章については、  
著作権法上の問題から掲載することが  
できませんので、ご了承願います。

(出典：Aronson, E. et al. (1990). *Methods of research in social psychology* (2nd ed.). McGraw-Hill. より一部改変)

- 問1 下線部 (1) にある二つの error とは何であり、それらがどのような点で異なるかについて、本文に即して日本語で説明しなさい。(10 点)
- 問2 下線部 (2) のようになぜ言えるのかについて、日本語で説明しなさい。(10 点)
- 問3 下線部 (3) の英文を日本語に訳しなさい。(10 点)
- 問4 下線部 (4) のようになぜ言えるのかについて、本文に即して日本語で説明しなさい。(10 点)

(2) 以下の英文の全文を日本語に訳しなさい。(20点)

この部分に記載されている文章については、  
著作権法上の問題から掲載することが  
できませんので、ご了承願います。

(出典 : Vogt, W. P. (1993). *Dictionary of statistics and methodology: A nontechnical guide for the social sciences*. SAGE Publications. より一部改変)

以上

2021年度 お茶の水女子大学大学院  
人間文化創成科学研究科（博士前期課程）

人間発達科学 専攻 ・ 保育・児童学 コース

一般・社会人特別・推薦・外国人留学生入試  
専 門 試 験

試 験 日 : 2020年 9月6日(日)

試 験 時 間 : 9時30分 ~ 12時00分

【注意事項】

1. 監督者の「始め」の合図があるまで問題冊子を開けないこと
2. 試験中、用のある場合は手を挙げて監督者を呼ぶこと
3. 問題毎に答案用紙一枚を使用し、問題番号を明記すること  
ただし問題内に別途指示がある場合は、それに従うこと

問題1 次の英文を訳しなさい。

この部分に記載されている文章については、  
著作権法上の問題から掲載することが  
できませんので、ご了承願います。

この部分に記載されている文章については、  
著作権法上の問題から掲載することが  
できませんので、ご了承願います。

出典：Resnick, M. (2018). *Lifelong Kindergarten: Cultivating Creativity through Projects, Passion, Peers, and Play*. Cambridge, MA: MIT Press.

問題 2

- (1) 以下のレポートを読んで、日本とイングランドの相違点を3点指摘しなさい(300字程度)。
- (2) また、もし、イングランドのシステムを日本に導入した場合、どのようなメリットとデメリットが生じると考えられるか述べてなさい(400字程度)。

この部分に記載されている文章については、  
著作権法上の問題から掲載することが  
できませんので、ご了承ください。

出典：European Commission/EACEA/Eurydice, 2019. *Key Data on Early Childhood Education and Care in Europe – 2019 Edition*. Eurydice Report. Luxembourg: Publications Office of the European Union. を一部改変。

注：ISCED とは、国際教育標準分類と訳されるもので、ユネスコが策定した国際統計上のフレームワーク。ISCED 1 が初等教育で、ISCED 0 が就学前教育を指す。

問題3 次の文章を読んで、各問に答えなさい。

- (1) 文章の要点をまとめなさい (300字程度)。
- (2) 子どもの育ちや保育実践に関して、積み木の特徴から示唆されることを論じなさい (500字程度)。

積み、崩し、また積み。

積み木は、積み上げる高揚感と、崩れ去るはかなさが分かちがたく結びついているおもちゃである。接合ブロックやプラモデルと異なり、部品と部品が接合されていないために、ちよつとした接合で界面が滑り、崩れやすいし、崩れてもすぐに作りやすい。たしかに、接合ブロックも分解することにそれほど時間がかからないにせよ、一定程度の経験が必要になってくるし、積み木ほどの扱いやすさ、壊れやすさ、つまり単純さはない。接合ブロックは重力に逆らって接合することができるが、積み木は重力に逆らった接合をすることができない。その欠点を補うかのよう、音がよく響く。積み木の崩落は、拍子もメロディーも生み出さないが、ブロックとブロックが接触する音よりも柔らかく心地良い、この世に一回限りの音を響かせ、一回限りの残骸の模様を目前に現出させる。

積み木は、日本語の語感からしても積みおもちゃであると思われがちである。しかし、実のところ積み木遊びには、崩すこと、ばらばらにすること、あちこちに散らばること、偶然にできた散らばりの様子を見ること、そして音を鳴らすことも含まれている。いわば崩し木である。仮に積み木が糊で接着させる遊びであったとすれば、バラバラと崩れる積み木にあの響きは出ない。私のささやかな観察のなかで感じてきた以上のことは、数世紀にわたって無数の人びとが目撃してきたはずであるし、また、積み木の建造物を崩すときの、内に秘められた破壊衝動を放出するというような快楽や、完成されているものを分解したいという欲望が記憶に残っている大人も私だけではないだろう。じっさい、少なからぬ観察者が、子どもが積み木を崩すことについて記録してきた。

(中略)

また、フレイベルは「母の歌と愛撫の歌」(一八四四年)という本を刊行し、彼の書いた母子の愛撫や手遊びの詩のほとんどにローベルト・コールが曲をつけている。歌にあふれた幼稚園生活のなかで積み木遊びに歌があることは、取り立てて驚くべきことではないかもしれない。だが、フレイベルのもたらした革新性はまさにここにある。というのも、積み木を積みながら歌をうたうことは、歌の原初的形態と呼ぶべきものだからである。歌と労働はかつて不可分のものであった。田植唄、馬引き唄、粉ひき唄、木挽き唄などの労作歌は、もともと仕事の苦痛を軽減させること以外に、仕事にリズムをもたらす、あるいは、共同作業者との呼吸を合わせるという効果があった。積み木をはじめ、さまざまな遊びにメロディーがつけられるフレイベルの幼稚園は、まさに、リズムのなかで作業を活性化するという効果を園児にもたらす。

ただし、フレイベルの積み木の論考には、積み木を積み立てるときの歌があっても、積み木を崩すときの音に注意が払われていない。そもそも、崩すときの音に関する描写がない。それこそフレイベルが教育の現場にあつてはならないと考える「乱れ」であり「無秩序」だからかもしれない。すでにこれまで述べてきたとおり、フレイベルが積み木の性質として分解と統一に言及するとき、重きはつねに「統一」に置かれ、「分解」はあくまでその補助的役割を果たすにすぎなかった。積み木はつねに整理され、一定の遊具箱に入れられる。積み木を共同で使用することは大いに奨励されていたが、その場合は、かならず、自分のものと他人のものを認識して使用し、最後には自分の箱に片付けることが注意書きとして述べられていた。

けれども、積み木が崩れる音は転生の音でもある。それは、積み木の分解の副産物であり、発

酵の音でもある。積み木が地面にぶつかると音は反転の音でもある。積み木がまさに崩れようとするときの息を呑む空気の緊張は新しい世界の兆しであり、そのときの気配は何かが生まれることへの期待である。これは象徴的に述べているのではない。積み木遊びをフレイベルほどの子ども観察に卓越した能力を持つ人間であれば、崩すという幼児たちの仕事と、崩す寸前に熱を帯びる幼児たちの赤らんだ顔と、幼児たちのまわりを包む張り詰めた空気のなかに新しい創造性ですでに含まれていることに、もつと目を向けてもよかつたはずである。さらに言えば、積み木というおもちゃは、生涯も増殖も分解の一構成要素にすぎず、基本的には分解過程のなかの一瞬の輝きにすぎないことを伝えているようにさえ思える。

(中略)

積み木は、そんなありえなかもしれない別のしなやかな「世界」を静かに示している。あるいは、幼稚園の園庭にあふればかりに育てられることが想定されていた植物も、ものが不変ではなく、枯れて土に還ることを園児たちに長い時間をかけて無言のまま教えてくれている。人間も土のように、ものを分解し、みずからも分解していく存在であると自己認識できるのである。精神も「統一」から漏れ出るものがあり、それがまた人間の特徴となり、創造性の源になるとするならば、人間総体をもつと異なつたように、柔らかく、寛容に捉え直すことが幼稚園という環境のなかでこそできるのではないか。